

2019（平成31）年度

第3学年

学習の内容と評価



IBワールドスクール ユネスコスクール
スーパーサイエンスハイスクール
スーパーグローバルハイスクール

東京学芸大学附属国際中等教育学校

6 か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確か
で豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

3 学年の目標/伸ばしたい力

- 文章を読むだけでなく、人の話や、さまざまなメディアからの情報を含めて「読み取る力」。
- 自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるための「書く力」。
- 自分の考えを深めたり、他の人とよりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確
に「聞き取る力」や「情報を整理する力」。
- 聞き手の身になってよりわかりやすく伝えるための「話す力」。
- 言語についての知識やそれを活用する技能。

規準 A 分析 (Analysing)

- i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係を特定し説明する。
- ii. 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。
- iii. 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。
- iv. ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴の類似点と相違点を解釈する。

規準 B 構成 (Organizing)

- i. 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
- ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
- iii. 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。

規準 C 創作 (Producing text)

- i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思想、想像力、
感受性を示すテキストを創作する。
- ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
- iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。

規準 D 言語の使用 (言語の使用 Using language)

- i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
- ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
- iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
- iv. 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
- v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 分析 (Analysing)

定期テスト・ワークシート・作文

規準 B 構成 (Organizing)

定期テスト・ノート・ワークシート・作文・スピーチ

規準 C 創作 (Producing text)

作品・スピーチ・

規準 D 言語の使用 (Using language)

定期テスト・小テスト・作文・スピーチ・暗唱

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 国語への関心・意欲・態度
- 観点 2 話す・聞く能力
- 観点 3 書く能力
- 観点 4 読む能力
- 観点 5 言語についての知識・理解・技能

学習内容

主に教科書『中学校 国語 3』（学校図書）を使用します。単元によっては別にプリントや教材を配ります。次のような学習
を行う予定です。

- 1：〈随想〉
 - ・言葉の持つ意味とあり方について再認識し、言葉について継続的に考えを深めていく。
 - ・よりよいコミュニケーションは何に支えられているかということを考える。
- 2：〈評論〉
 - ・日常生活で身近なものと今を生きる人間の置かれた状況との関わりを正しく把握する。
 - ・展開に注意しながら、筆者の考えを正しく理解し、自分の意見を持つ。
- 3：〈小説〉
 - ・表現にそって登場人物の心の動きをたどり、作品全体の構造や作者の意図を把握する。
 - ・登場人物の生き方から、自身の生き方について考える。
- 4：〈古典〉
 - ・古人の言葉との出会いの中から、古人のものの考え方や見方を学ぶ。
 - ・古人の創り出し語り伝えた言語文化を尊重することの意義について考える。
- 5：〈国語の特質〉
 - ・ことばのしくみや役割を正しく理解し、読解や表現の学習に役立てられるようにする。
 - ・漢字の学習を進めながら漢字や語句の理解を深め、より多くの語彙を獲得することを目指す。

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

3 学年の目標/伸ばしたい力

社会科の学習では、次のような「力」を培っていきたいと考えます。

- 新聞やテレビで報道される社会的なできごとに対して知的好奇心をいなく「力」
- 地図や統計資料、写真や映像資料等を読み解いていく「力」
- 社会的な事象に対する自分の考えを、論理的な文章でまとめていく「力」
- 学習した内容を、地図・新聞・レポートなどの形式で表現する「力」
- SDGs（持続可能な開発目標）を意識して、社会的な事象をとらえていく「力」

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解

規準 A 定期考査を中心に、授業中の学習活動から、歴史・政治経済の知識に関する理解度および活用の程度を評価します。

規準 B 調査探究

規準 B 書籍・新聞記事・史料・統計資料・WEB ページ等を適切に読み取り、複数の情報を取捨選択し、自ら考察することができたかを評価します。

規準 C コミュニケーション

規準 C 授業中の質疑応答はもとより、課題に基づくディスカッション・模擬裁判・調査内容のプレゼンテーションにおいて、論点を整理してわかりやすく表現できたかを評価します。

規準 D 批判的思考

規準 D 各種「エッセイ」コンテスト等のパフォーマンス課題で表明される意見・思考の深さを評価します。

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 社会的事象への関心・意欲・態度
- 観点 2 社会的な思考・判断・表現
- 観点 3 資料活用の技能
- 観点 4 社会事象についての知識・理解

学習内容

基本的には、歴史的分野では、教科書『ともに学ぶ 人間の歴史』（学び舎）を、
 公民的分野では、教科書『中学社会 公民』（教育出版）をします。
 その他、書籍・新聞記事・映像資料（映画・ドキュメンタリー・TV ニュース）、担当教員が作成した
 学習プリントを補助教材として使用します。

【歴史的分野】

19 世紀以降の日本と世界の歴史

【公民的分野】

- 政治（人権・憲法・統治機構など）
- 経済（企業・金融・財政など）
- 国際（国際連合など）

6 か年を通した目標

6 か年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として適切に判断し、行動できる人間を育成するために、数学的リテラシーを育成するとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

「数学的リテラシー (Mathematical literacy)」とは、たとえば、次のような力です。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校独自の副読本『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

3 年次は、2 年次までに身につけた数と式、図形、関数、統計に関わる概念や方法をさらに高めます。これまでの学習内容と後期課程の数学を結びつける、とても重要な学年と位置づけています。

なお、通常の教科書と『TGUISS 数学』との対応は、別表 1、別表 2 の通りです。

3 学年の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的活動に基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定する力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

MYP 評価規準

次の 4 つの規準で評価します。

- 規準 A 知識と理解
- 規準 B パターンの探究
- 規準 C 数学におけるコミュニケーション
- 規準 D 実生活への数学の応用

評価方法

規準 A

数学の概念とスキル (技能) に関する理解について、筆記テストを中心に評価します。

規準 B

様々な場面においてパターンを見出す力や、それを図や式等で表すことができる力、そのパターンの根拠やそれを用いて数学的な結論を導いたりする力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。

規準 C

場面や文脈に応じて、適切な数学の記号と言語を選択し、それらを用いて事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。

規準 D

数学が世界に対して果たす役割について理解を深めるとともに、社会問題や日常生活に数学を応用していく力とその結果を振り返る力を、授業中の活動やレポート、筆記テスト等を通して評価します。

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 数学への関心・意欲・態度
- 観点 2 数学的な見方や考え方
- 観点 3 数学的な技能
- 観点 4 数量、図形などについての知識・理解

学習内容

『TGUISS 数学 3』を使用しながら、次のような学習を行います。

① 三平方の定理と三角比

具体的な事象の中から、三平方の定理や三角比を創出し、それらについて理解するとともに、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めるためにそれらを用いることができるようにします。

〔主な学習内容〕平方根、立方根、展開公式、三平方の定理、三角比、正弦定理、余弦定理

② いろいろな関数とグラフ

具体的な事象の中から、いろいろな変化のパターンを見だし、それを関数やそのグラフとして表すことができるようになるとともに、それらを用いて事象を数学的に考察する力を伸ばします。さらに、関数のグラフそのものの特徴について考察し、理解を深めます。

〔主な学習内容〕 x^2 に比例・反比例する関数、展開公式、因数分解、2次関数、2次方程式

③ 数え上げ

もれなく、重複することなく数え上げる方法について理解し、それらを事象の考察に用いることができるようにします。また、集合の考え方を用いて、より深い数学的推論ができるようにします。

〔主な学習内容〕集合とその要素の個数、場合の数、順列、組合せ、二項定理

別表 1

学年	本校のカリキュラム	主な内容	学習指導要領	MYP数学
1	数の見方	整数	3年, 数学A	○
		正の数・負の数	1年	○
	事象の見方	関数の考え	1年	○
		文字式	1, 2年	○
		一次方程式	1年	○
	図形の見方	空間図形	1年	○
		投影図	1年	
		平面図形	1年	○
		球の体積, 表面積	1年	○
	データの分析	データの収集	1年	○
データの分布と分析		1年, 数学 I	○	
2	一次関数と方程式	比例	1年	○
		一次関数	2年	○
		一次不等式	数学 I	○
		連立方程式	2年	○
	平行と相似	平行四辺形	2年	○
		相似な図形	3年	○
		作図	1年	○
	図形の論証	三角形の合同条件	2年	○(上級)
		三角形の相似条件	3年	○(上級)
		四角形の性質	2年	○(上級)
相関と帰納	円の性質	3年, 数学A		
	相関	数学 I	○(上級)	
3	三平方の定理と三角比	帰納	なし	○(上級)
		平方根	3年	○
		三平方の定理	3年	○
	いろいろな関数とグラフ	三角比	数学 I	○
		反比例	1年	○(上級)
		$y=ax^2$	3年	○
		べき乗関数	数学 II	
		二次関数	数学 I	○
		関数のグラフ	数学 I, II	○
		二次方程式	3年	
数え上げ	集合	数学 I, A	○	
	場合の数	数学A	○(上級)	

別表 2

通常の教科書		本校のテキスト	
学年	内容	学年	単元名
1	文字と式	1	事象の見方
1	正の数・負の数	1	数の見方
1	方程式	1	事象の見方
1	比例	2	一次関数
1	反比例	4	いろいろな関数のグラフ
1	平面図形	1	図形の見方
1	作図	2	平行と相似
1	空間図形	1	図形の見方
1	資料の活用	1	資料の見方
2	式の計算	1	事象の見方
2	連立方程式	2	一次関数
2	一次関数	2	一次関数
2	平行と合同	2	平行と相似
2	三角形	2	図形の論証
2	四角形	2	図形の論証
2	確率	4	確率
3	平方根	3	三平方の定理と三角比
3	多項式	3	色々な関数とグラフ
3	二次方程式	3	色々な関数とグラフ
3	関数 $y=ax^2$	3	色々な関数とグラフ
3	相似な図形	2	平行と相似
3	円	2	図形の論証
3	三平方の定理	3	三平方の定理と三角比
3	全数調査・標本調査	4	統計基礎

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「物理」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

3 学年の目標/伸ばしたい力

3 年で学習する物理は力、電気、磁力などのように、目では見えないものを多く取り扱います。見えない・触れられないものをとらえるのは難しいことですが、これを通して見えないものを測定したり解釈したりできる力を身につけたいと思います。あわせて実験のデータ処理等、数学的に考える力も伸ばしたいです。

MYP 評価規準

規準 A 知識と理解
 規準 B 探求とデザイン
 規準 C 手法と評価
 規準 D 科学による影響の振り返り

評価方法

実験の取り組み【規準 B、C】
 レポート等提出物【規準 B、C、D】
 テスト【規準 A】

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 自然事象への関心・意欲・態度
- 観点 2 科学的な思考・表現
- 観点 3 観察・実験の技能
- 観点 4 自然事象についての知識・理解

学習内容

3 学年物理基礎ではおおまかに力学分野と電磁気学分野に分けて学習します。力学分野では物体の運動、力のはたらき、仕事とエネルギーについて学習します。電磁気学分野では静電気と電子、電流と電気回路、電磁気、科学と人間生活について学習します。

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

3 学年の目標/伸ばしたい力

現代社会はその維持と発展のために科学技術との共生が不可欠であるという現状を踏まえて、化学的視点から社会に向き合う態度を育成する。具体的には、自然災害や公害、エネルギー問題、食品・日用品の安全性など、科学技術が過去・現在・未来の私たちの生活に深く関わっているという文脈の中で、以下に示す基礎的な概念や能力を身に付けていく。

- ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。
- ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。
- ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。
- ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解

探究活動・実験・観察の取り組み

規準 B 探究とデザイン

グループワークやプレゼンテーション

規準 C 手法と評価

実験ノート・レポート等の提出物

規準 D 科学による影響の振り返り

定期試験

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点 1 自然事象への関心・意欲・態度

観点 2 科学的な思考・表現

観点 3 観察・実験の技能

観点 4 自然事象についての知識・理解

学習内容

1 学期

- ・物質の成り立ち
物質の分解 原子・分子
- ・化学変化
化合 酸化と還元
- ・水溶液とイオン
水溶液の電気伝導性 原子の成り立ちとイオン
- ・酸・アルカリとイオン
酸・アルカリ 中和と塩
- ・科学技術の発展
- ・自然環境の保全と科学技術の利用 など

2 学期

- ・化学変化と電池
- ・エネルギー
様々なエネルギーとその変換 エネルギー資源 など

3 学期

- ・化学変化
化学変化と熱
- ・化学変化と物質の質量
化学変化と質量の保存 質量変化の規則性 など

保健体育科 3学年<保健体育> MYP Physical and Health Education

6か年を通した目標

体育：国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

保健：個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

3学年の目標/伸ばしたい力

健康に関する基礎的な知識や概念を理解するとともに、学習内容を活用することができる。

運動の原則やルール、戦術を考えることができる。

一連の動きや技の構成などが洗練され、美的でスムーズに展開するとともに、表現豊かに運動することができる。

より複雑な運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ったり、他者にも示したりすることができる。

個人やグループで、より検討された作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりすることができる。

他者との連携を図るために、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、効果的なコミュニケーション力を発揮しようとするすることができる。

学習カードの提出等、決められた約束を守ったり、他者と協力して懸命に取り組んだりすることができる。

MYP 評価規準	評価方法
規準 A 知識と理解	期末テスト、課題やレポート等
規準 B 活動の計画	身体パフォーマンスと健康を改善するための計画の策定、計画書の記入
規準 C 応用と実践	運動技能の合理的な実践と応用能力
規準 D 活動の振り返りと改善	学習カードなどの記録の提出、取り組み等

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

観点1 運動や健康・安全への関心・意欲・態度

観点2 運動や健康・安全についての思考・判断

観点3 運動の技能

観点4 運動や健康・安全についての知識・理解

学習内容

体育

- ① 体づくり運動／スポーツテスト：4月～5月
- ② 投運動（ソフトボール／バドミントン）：5月～6月
- ③ 水泳応用Ⅲ：6月～7月，9月上旬まで
- ④ 球技Ⅳ（アルティメット／バスケットボール）：9月～12月
- ⑤ 武道Ⅰ／ダンスⅠ：1月～3月
- ⑥ 体育理論Ⅲ（文化としてのスポーツ）：1月～3月

保健

- 健康な生活と病気の予防：9月～12月

※公開研究会等の都合により、学習の順番が前後することがあります。

6か年を通した目標

国際社会の一員として必要な豊かな情操を養っていくために、表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、創造的な音楽性を培う。

3学年の目標/伸ばしたい力

- 1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- 3 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解

(A) ワークシート・作品のリサーチ

主に授業中の学習内容を確認するプリントと、単元で扱っている主要な楽曲に対する調査（リサーチ）が評価の対象となります。ギター演奏の基礎的な奏法は規準 A で評価されます。

規準 B 技能の発展

(B) 歌唱テスト・編曲作品提出・器楽演奏

実技によるスキルの達成度の評価と、リズムを含む作曲作品の提出で評価します。また、グループアンサンブル時における演出も評価の対象となります。ギター演習の応用的な演奏は規準 B で評価されます（弾き語りなど）。

規準 C 創造的思考

(C) プロセスノート・ディスカッション

規準 B の作品などの、取り組み始めから完成までのプロセス、あるいは、具体的にどのような作品（ゴール）にしようかという議論の記述を評価します。アイデアのスケッチだけでなく、具体的な代案や変更案、またその理由などの記述も必要となります。

規準 D 鑑賞

(D) グループワーク・相互評価

互いの作品や演奏に対して客観的に鑑賞し、相互に評価をします。また、鑑賞作品の学習やディスカッションをふまえながら、単元の探究の問いに対してレポート形式で答えていきます。

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点1 音楽への関心・意欲・態度
- 観点2 音楽表現の創意工夫
- 観点3 音楽表現の技能
- 観点4 鑑賞の能力

学習内容

<歌唱>

- 1, 2, 3 学期の活動を通して、混声3部合唱以上の響きへと相互の表現力を高めていきます。詩の内容を深く理解し、声の強弱、緩急、発音、柔剛などさまざまな表現力を養っていきます。
- ・ハーモニーの構造を知り、和音の響きの違い等を理解していきます。
 - ・ミュージカル曲やメディア音楽のアンサンブル活動を通じて、体現的な音楽表現の工夫、編曲をおこない、より高度な感性の深まりを目指します。

<鑑賞>

音楽を通した表現に関する作品について鑑賞力を高めていきます。音楽素材を十分に活用した近・現代の作品や、音楽史にかかわる鑑賞、また、互いの演奏を鑑賞することを通して鑑賞力を高めていきます。

<器楽>

- ・ギターの歴史的推移を踏まえながら、その構造や音のなる仕組みなどを学習し、楽器を多角的な視点で分析します。また、ギター演奏の基礎を学び、弾き語りの難しさと面白さを味わいます。

6 か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

3 学年の目標/伸ばしたい力

美術科では6年間で3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

3年生は基礎的な学習をもとに発展的な学習をする時期と捉え、授業を展開していきます。

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 知識と理解
規準 B 技能の発展
規準 C 創造的思考
規準 D 鑑賞

The arts process journal (APJ)、レポート
表現活動、作品
APJ、レポート、ディスカッション
APJ、レポート、鑑賞活動

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 美術への関心・意欲・態度
- 観点 2 発想や構想の能力
- 観点 3 創造的な技能
- 観点 4 鑑賞の能力

学習内容

1 学期

4～7月

絵画 鉛筆デッサンと様々な技法を組み合わせた作品を制作します。
様々な表現技法を組み合わせで表現します。
(主な学習内容・活動内容) 鉛筆による人物デッサン。様々な技法。

2 学期

9月～12月

鑑賞 自分達の作品を工夫して展示し、発表し、鑑賞します。
工芸 前期課程修了の記念となるような作品を制作します。
(主な学習内容・活動内容) 素材の加工と仕上げ。

3 学期

1～3月

デザイン イメージやメッセージを効果的に表現し発信する事を学びます。
(主な学習内容・活動内容) 展示空間デザイン。作品の批評。画面構成。グラフィックデザイン。

* 行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。

6 か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

3 学年の目標/伸ばしたい力

3 年次は、いままで身につけた基礎の更なる伸長をはかり、応用する力を伸ばします。語彙、文法を基礎として、話す・聞く・読む・書く力を総合的に訓練します。聞く・読む活動から、情報を得て、まとめ、分析して話す・書く力を育成します。また、英語圏文化の理解を深め、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します

At the end of phase 3, students should be able to:

Criterion A: Comprehending spoken and visual text

- i. show understanding of information, main ideas and supporting details, and draw conclusions
- ii. understand conventions
- iii. engage with the spoken and visual text by identifying ideas, opinions and attitudes and by making a response to the text based on personal experiences and opinions.

Criterion B: Comprehending visual and written text

- i. show understanding of information, main ideas and supporting details, and draw conclusions
- ii. understand basic conventions including aspects of format and style, and author's purpose for writing
- iii. engage with the written and visual text by identifying ideas, opinions and attitudes and by making a response to the text based on personal experiences and opinions

Criterion C: Communicating in response to spoken, written and visual text

- i. respond appropriately to spoken, written and visual text
- ii. interact in rehearsed and unrehearsed exchanges
- iii. express ideas and feelings, and communicate information in familiar and some unfamiliar situations
- iv. communicate with a sense of audience and purpose.

Criterion D: Using language in spoken and written form

- i. write and speak using a range of vocabulary, grammatical structures and conventions; when speaking, use clear pronunciation and intonation
- ii. organize information and ideas and use a range of basic cohesive devices
- iii. use language to suit the context.

MYP 評価規準 Phase 3

評価方法

規準 A リスニング	テスト、インタビュー
規準 B リーディング	テスト、ワークシート
規準 C コミュニケーション	スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー、エッセイ
規準 D 言語の使用	作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- 観点 2 外国語表現の能力
- 観点 3 外国語理解の能力
- 観点 4 言語や文化についての知識・理解

学習内容

教科書の学習内容を踏まえて、英語を使って自分の意見を根拠とともに発信する学習を中心に行います。さらに語彙や表現の幅を広げます。様々な活動を通して英語力の定着をはかります。言語、世界の文化、環境保護、歴史、日本の文化、平和問題、国際協力など

外国語科 3 学年 <英語 3 Advanced> MYP Language Acquisition

6 か年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

3 学年の目標/伸ばしたい力

3 年次は、上記の目標を実現するための基礎となる力を維持していく学年と位置づけています。これまで英語のみならず他教科で蓄積してきた知識を動員しながら、また物事を論理的に検証し、分析するために探究活動を通して、英語で今日的な話題について考えていきます。

At the end of phase 4, students should be able to:

Criterion A: Comprehending spoken and visual text

- i. construct meaning and draw conclusions from information, main ideas and supporting details
- ii. interpret conventions
- iii. engage with the spoken and visual text by identifying ideas, opinions and attitudes and by making a response to the text based on personal experiences and opinions.

Criterion B: Comprehending visual and written text

- i. construct meaning by identifying stated and implied information, main ideas and supporting details, and draw conclusions
- ii. interpret basic conventions including aspects of format and style, and author's purpose for writing
- iii. engage with the written and visual text by identifying ideas, opinions and attitudes and by making a response to the text based on personal experiences and opinions.

Criterion C: Communicating in response to spoken, written and visual text

- i. respond appropriately to spoken, written and visual text
- ii. engage in rehearsed and unrehearsed exchanges to share ideas on topics of personal and global significance
- iii. express ideas and feelings, and communicate information in simple and complex texts
- iv. communicate with a sense of audience and purpose.

Criterion D: Using language in spoken and written form

- i. write and speak using a range of vocabulary, grammatical structures and conventions; when speaking, use clear pronunciation and intonation
- ii. organize information and ideas into a structured text; use a wide range of cohesive devices
- iii. use language to suit the context.

MYP 評価規準 Phase 4

- 規準 A リスニング
- 規準 B リーディング
- 規準 C コミュニケーション
- 規準 D 言語の使用

評価方法

- テスト、インタビュー
- テスト、ワークシート
- スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー、エッセイ
- 作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- 観点 2 外国語表現の能力
- 観点 3 外国語理解の能力
- 観点 4 言語や文化についての知識・理解

学習内容

新聞、インターネット、文学など多様な題材を用いて、英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。

国際教養群 3 学年 <Learning in English (LE) 3 Core>

6 か年を通した目標	
言語学習だけが目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。	
3 学年の目標/伸ばしたい力	
3 年次は、上記の目標を実現するための英語でのアウトプットを可能にする力も身につける学年と位置づけています。まとまった時間を英語のみ学習することで、引き続き英語に浸る(immerse)練習をしていきます。英語学習経験のある生徒に対しても、引き続き英語で教科的な内容を操作する経験を提供します。4 年次から本格的に始まるイマージョン授業の準備をします。	
評価規準	評価方法
規準 A 知識と概念 規準 B プレゼンテーション	インタビュー、ワークシート、作品、テスト スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー、 ディスカッション
学習内容	
英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、プレゼンテーション能力やディスカッションの力を身につけていきます。	

国際教養群 3 学年 <Learning in English (LE) 3 Advanced>

6 か年を通した目標	
言語学習が目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。	
3 学年の目標/伸ばしたい力	
3 年次は、上記の目標を実現するための英語でのアウトプットを可能にする力も身につける学年と位置づけています。まとまった時間を英語のみ学習することで、引き続き英語に浸る(immerse)練習をしていきます。英語学習経験のある生徒に対しても、引き続き英語で教科的な内容を操作する経験を提供します。4 年次から本格的に始まるイマージョン授業の準備をします。	
評価規準	評価方法
規準 A 知識と概念 規準 B プレゼンテーション	インタビュー、ワークシート、作品、テスト スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー、 ディスカッション
学習内容	
英語を使いながらあらゆるテーマについて学ぶ力と態度を伸ばします。 社会科、数学科、理科、芸術科など他教科からのアプローチを特に意識し、様々な問題について議論します。	

3 年を通した目標

プロダクトやソリューションの製作・開発を通して、現実世界の難問に対し、グローバルな視点で批判的かつ臨機応変に対応できる評価・活用能力や態度を養います。

1 学年の目標/伸ばしたい力

3 年次は、1・2 年次で養ったものづくりとしてのデザインサイクルを、問題解決方法という広い枠組みで捉え、別の分野で活用させていきます。工業的な生産から農業的な生産へ、また、社会的な問題を解決するためのソリューション提案へと昇華させ、より広い視野で技術を扱いながら、現代的な課題と向き合います。

規準 A 探究と分析

- i. 問題解決の必要性について説明し、正当化する。
- ii. 自分の力で、問題解決を進展させるのに必要な第 1、第 2 の調査を述べ、優先順位を立て、調査計画を構成する。
- iii. 問題解決の調査をしている類似製品のグループについて解析する。
- iv. 関連した主な調査の解析を提出し、設計コンセプトを発展させる。

規準 B アイデアの発展

- i. 正しいデータを基にした解決策の設計のための成功基準の要点をまとめた設計仕様を発展させる。
- ii. 適切なメディアと注釈を使った実行可能なデザインアイデアを発表し、他者から正しく理解される。
- iii. 選んだデザインを発表し、設計仕様に関して選別理由の要点をまとめる。
- iv. 正確な計画図・表を発展させて、選んだ解決策の制作のための詳細の要点をまとめる。

規準 C 課題解決

- i. 論理的な計画を作成し、リソースと時間の効果的な使用について要点をまとめ、協働者がソリューションの制作に十分従うことができている
- ii. ソリューションを作るときに優れた技術を示している
- iii. ソリューションの制作計画に従い、所定の役割を果たし適切に示している
- iv. ソリューション制作時に選んだデザインや計画の変更点を説明する

規準 D 評価

- i. ソリューションの成果を判断するため、詳細な関連したテスト方法を記述し、精密なデータを生成する
- ii. 根拠ある製品テストを基に、設計仕様から離れてソリューションの成果を説明する
- iii. ソリューションをどのように改善したか記述する
- iv. 顧客/ターゲット層に対しソリューションの影響について記述する

MYP 評価規準

評価方法

規準 A 探究と分析	規準 A：プロセスシート 定期テスト
規準 B アイデアの発展	規準 B：プロセスシート 定期テスト
規準 C 課題解決	規準 C：プロセスシート、製作物、定期テスト
規準 D 評価	規準 D：プロセスシート

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 生活や技術への関心・意欲・態度
- 観点 2 生活を工夫し創造する能力
- 観点 3 生活の技能
- 観点 4 生活や技術についての知識・理解

学習内容

- ① コンピューターと制御
フローチャートを基本とするコンピューターを介した制御方法を学習したのち、現実社会における課題を解決するためのソリューションモデルを提案します。
- ② 生物育成
大根の栽培を行います。グループごとに現代の食糧生産に関する課題を見つけ、それに対応したテーマや栽培計画を考え、異なる環境で栽培された作物がどのような違いを見せるのかを観察・分析します。

3 か年を通した目標

実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、家庭の機能について理解を深め、生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

3 学年の目標/伸ばしたい力

3 年次：衣服に関する文化や衣服の選択と手入れなど、持続発展可能な社会を考えた衣生活に関して学び、被服製作を通してデザインサイクルを実践する。衣服の流通の仕組みや環境・機能、そして、様々な生活に関わることについて理解を深め、課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度を育てる。

規準 A：探究と分析

- i. 衣生活に関わる課題を発見し、その必要性を誰もがわかるように説明できる
- ii. 衣生活の課題から、衣生活を向上させるのに必要な方法を、優先順位を立てて複数示すことができる
- iii. 衣生活の課題を解決するための方策を、系統立てて解析できる
- iv. 衣生活の概要（デザインブリーフ）を発展させた関連調査の解析ができる

規準 B：アイデアの発展

- i. 衣生活の課題解決のために、調べた内容から、衣生活がより正しく行われるための計画書を作成できる
- ii. 実現可能な衣生活の計画を、他者から正しく理解されるように示すことができる
- iii. 計画の作成理由と要点をまとめることができる
- iv. 計画が正確に理解できるように構造的に図解し、必要なものを要約できる

規準 C：課題解決

- i. 論理的な計画を作成し、資源や時間の効果的な使用について要点をまとめ、衣生活の課題解決ができる
- ii. 衣生活の課題解決上の優れた技術を示すことができる
- iii. 生活の課題解決計画に従って、その解決方法を選んだ理由や計画の変更点を説明できる
- iv. 衣生活の課題解決策を発表できる

規準 D：評価

- i. 衣生活の課題解決の成果を判断するための詳細なテスト方法を記述し、データを示すことができる
- ii. 上記の課題解決方法とは別に、衣生活の課題解決の成果を説明できる
- iii. 衣生活の課題解決をどのように改善したか記述できる
- iv. 衣生活の課題解決が生活にあたえる影響を記述できる

MYP 評価規準

評価方法

- 規準 A 探究と分析
- 規準 B アイデアの発展
- 規準 C 課題解決
- 規準 D 評価

A～D について
ワークシート、小テスト、定期テスト
製作物、各課題の提出状況授業の様子など

文部科学省 中学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 生活や技術への関心・意欲・態度
- 観点 2 生活を工夫し創造する能力
- 観点 3 生活の技能
- 観点 4 生活や技術についての知識・理解

学習内容

- (1) 衣服の選択と手入れ（衣服と社会生活の関わり・衣服の計画的な活用と選択・衣服の材料と手入れ）
- (2) 住居の機能と住まい方（家族の住空間と住居の機能・安全を考えた室内環境・快適な住まい）
- (3) 衣生活、住生活等の生活の工夫（布を用いた製作・衣服や住まいに関する課題解決の実践）
- (4) 家庭生活と消費（目的に応じた購入及び活用）
- (5) 家庭生活と環境（環境に配慮した家庭生活）

国際教養 1～6 学年 <国際 1～6>

6 か年を通した目標

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究 に関わる現代的な諸課題から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
ここで 国際理解・人間理解・理数探究 とは、現代的な諸課題を見る 3 つの視点である。
 - 国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。
 - 人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。
 - 理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え、社会に活用していく方法について考える。

各学年の目標/伸ばしたい力

- 〈1年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対する耐性を養う。
- 〈2年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。
- 〈3年〉様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。
- 〈4年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。
- 〈5年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。
- 〈6年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

MYP 評価規準

評価方法

総合的な学習の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はありません。

各学年の国際教養の時間、国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。

文部科学省 中学校・高等学校学習指導要領における教科の観点

各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。

国際教養群に入っている各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。

〈規準例〉

- LE (外国語科) : 規準 A 知識と概念 / 規準 B プレゼンテーション
- 情報 : 規準 A 課題に対する思考・判断 / 基準 B 課題に対する関心・意欲・態度
- Global issues : 規準 A 知識と理解 / 規準 B 調査研究 / 基準 C コミュニケーション / 基準 D 批判的思考
- 英語以外の言語 : 規準 A リスニング / 基準 B リーディング / 基準 C コミュニケーション / 基準 D 言語の使用
- 国際 B (College prep) : 規準 A Knowledge, Concepts and Personal Engagement with Learning / 基準 B Test-taking Language, Skills and Improvement

国際教養群に含まれる科目・学習内容

- 1年 「国際 1 (情報, 理数探究)」, 「Learning in English 1」
- 2年 「国際 2」, 「Learning in English 2」
- 3年 「国際 3」, 「Pre Immersion」, 「Learning in English 3」
- 4年 「MYP Personal Project/課題研究」, 「Global Issues」, 「英語以外の言語」
- 5年 「課題研究」「Global Issues」「英語以外の言語」
- 6年 「課題研究」「国際 A (講座: 憲法と人権・講座: 国際協力と社会貢献)」「国際 B (講座: 文学探究・講座: 応用数学・講座: College Prep・講座: ファシリテーション実践)

上記の科目・総合的な学習の時間の他に、1・3・5年のワークキャンプ I・II (国内)・III (海外)・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1年から3年では、4年次において PP を完成させるためのスキルを身に付ける学習活動を行います。さらに、5・6年の「課題研究」は、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。